2024年6月9日

2024年度　オンライン研修
「多様性が活きることばの教育」

研修A
「文化間移動をする高校生
の日本語指導」

第2回　キャリア開拓のための日本語指導

趣旨説明

齋藤ひろみ（東京学芸大学）

確認のために
研修A「文化間移動をする高校生の日本語指導」

研修A全体の趣旨

文化間移動を経て、多様な言語的文化的背景をもつ高校生が、その多様性と、それまでに培ってきた力や経験を発揮しながら社会に参画し、キャリアを開拓していくためのことばの力を育む教育について学びます。「特別の教育課程」による日本語指導の制度についての理解、制度を活用した外国人生徒等のための指導計画、指導・支援の内容構成を検討します。そこには、日本語はもちろん、教科等の学習、母語・母文化の獲得や多文化共生、そして、進路選択や自己実現のための教育・支援が含まれます。外国人生徒等が直面する問題・課題場面を想定し、具体的な事例とともに理解を深めましょう。

第１回研修
「進路選択で重視される「日本語の力」―日本語能力試験へのチャレンジ―
①自律的・主体的な生涯学習者となる
②進路の幅を広げ選択できる日本語の力を育む（運用力の向上・能力の公的な可視化 戦略として日本語能力試験（JLPT）へ挑戦）

第2回　キャリア開拓のための日本語指導

外国人生徒等は、共生社会の一員として、日本のこれからを担う若者です。その高校時代はキャリアパスの第一歩を踏み出すステージです。そのため、「特別の教育課程」による日本語指導では、日本語の知識・技能の指導に留まらず、社会的活動への参加、キャリア教育等と関連付けて日本語の運用力を高められるよう指導計画を立て、実施することが求められます。第2回研修では、文化間移動をするかれらが、日本社会で主体的に進路を選択しキャリアを開拓できるように、どのような日本語学習の場を提供するか考えます。例として、「調理師専門学校への進学」、「介護関連職への就職」を希望する場合を取り上げ、職業的専門性に関連付けて日本語の指導方法を検討します。また、「特別の教育課程」による日本語指導の実施校として、群馬県の太田フレックス高等学校さんに、取り組みの具体をご報告いただきます。

第2回 研修A プログラム

10:00−10:05　開会

10:05−11:10　キャリアを開拓する日本語指導
—職業的専門性に関連付けた日本語学習活動を例に—
東京学芸大学 小西円・齋藤ひろみ、明治大学 武内博子

11:15−12:00　「特別の教育課程」による日本語指導実施校の報告
「日本語指導」への取り組み
群馬県立太田フレックス高等学校 教諭 佐藤 創

12:00−12:30　交流

本研修の内容は、本学が受託した文部科学省「高等学校におけるに日本語指導体制整備事業」（令和4年・2022年度）の二つの成果物に基づいています。詳細は、直接アクセスしてご覧ください。

『高等学校における外国人生徒等の受入れの手引』

高等学校における外国人生徒等の受入れの手続き、日本語指導の仕組み、支援体制作りに関する考え方や事例、そして関連する情報で構成しています。

https://kodomonihongo.u-gakugei.ac.jp/.assets/M22_koko_nihongo_tebiki.pdf

『高等学校の日本語指導・学習支援のためのガイドライン』

日本語指導、教科指導・教科学習支援、キャリア教育、多文化共生教育に関し、具体的な内容構成や実施方法を提案します。本事業で実施した調査を通して収集した具体例や実践・取り組み事例、また、関係者の声なども採録しています。

https://kodomonihongo.u-gakugei.ac.jp/.assets/M22_koko_nihongo_guideline.pdf

キャリアを開拓するための日本語指導

―職業的専門性に関連付けた日本語学習活動を例に―

小西円（東京学芸大学）
武内博子（明治大学）
齋藤ひろみ（東京学芸大学）

Ⅰ　キャリアを開拓することとことばの学習

齋藤ひろみ（東京学芸大学）

1　キャリアを開拓することとことばの学習
（1）ライフキャリアの視点から

『手引』p.13より

課題3　外国人生徒等の社会参画・キャリア支援の充実

高等学校の出口である進学・就職は、生徒にとっては社会参画のスタートともなります。生徒のキャリア形成を念頭に地域の社会・産業構造、就業・進学の仕組みなどの具体的な学習とともに、社会的存在として自己認識を形成する教育を行います。

キャリア

人が生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分との関係を見いだしていく連なりや積み重ね

キャリア発達…ライフキャリアの視点で

- 生涯にわたる長期的なプロセス
- 社会との相互作用（社会の一員として主体的に生きる）
- 自己の能力を開拓し自分らしい生き方を実現
- 自己認識と社会的認識の統合による自己理解

キャリア教育

一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育

（文部科学省の定義）https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/index.htm

（2）高校時代に育みたい「職業的専門性」

： 職業選択への備え・自律性・レジリエンス

スーパーのキャリア発達の過程

～14歳：成長期
～24歳：探索期
～45歳：確立期
～65歳：維持期
65歳以上：離脱期

職業に対する知識を広げ、
将来の職業選択に備えること

Super, D. E. (1980). A life span, life-space approach to career development. Journal of Vocational Behavior, 16, 282-298.

職業専門性

- 利他主義
- 自律性
- 知識・技能の習得と発展
- 資格等による権威づけ
- 仲間との連携

森田慎一郎(2006)「大学生における職業の専門性への志向尺度の作成と医学部進学予定者の職業決定への影響の検討」『発達心理学研究』第17巻, 第3号, pp252-262

キャリアレジリエンス

仕事における挑戦的もしくは不穏な状況が生じた際に適応に至るプロセス，能力，結果
具体的には「環境の変化に適応し，ネガティブな仕事状況に対処する個人の能力」
「キャリア形成を脅かすリスクに直面した時，それに対処してキャリア形成を促す働きをする心理特性」.

参考：池田めぐみ・伏木田稚子・山内祐平(2018)「大学生のクラブ・サークル活動への取り組みがキャリアレジリエンスに与える影響」『日本教育工学会論文誌』42(1), 1-14

参考　高等学校段階のキャリア・発達課題

文部科学省『高等学校キャリア教育の手引き』第2章より
https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2011/11/04/1312817_12.pdf

社会的・職業的自立に必要な「基礎的・汎用的能力」を育成する

＜全ての学科に共通して育成すべき力の例＞

人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
他者の個性を理解する力，他者に働きかける力，コミュニケーション・スキル，チームワーク，リーダー シップなど	自己の役割の理解，前向きに考える力，自己の動機付けや忍耐力，ストレスマネジメント，主体的な行動力など	情報の理解・選択・処理，本質の理解，原因の追求，課題発見，計画立案，実行力，評価・改善など	学ぶこと・働くことの意義や役割の理解，多様性の理解，将来設計，選択・行動と改善など

キャリア教育 と職業教育の育成すべき力

キャリア教育：一人一人の社会的・職業的自立に向け，必要な基盤となる能力や態度

職業教育　　：一定又は特定の職業に従事するために必要な知識，技能，能力や態度

（中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」（平成 23 年 1 月 31 日））

（3）多様な進路の選択と「日本語の学習」

「職業的専門性」
　職業選択への備え
　利他主義・自律性・仲間との連携
　キャリアレジリエンス

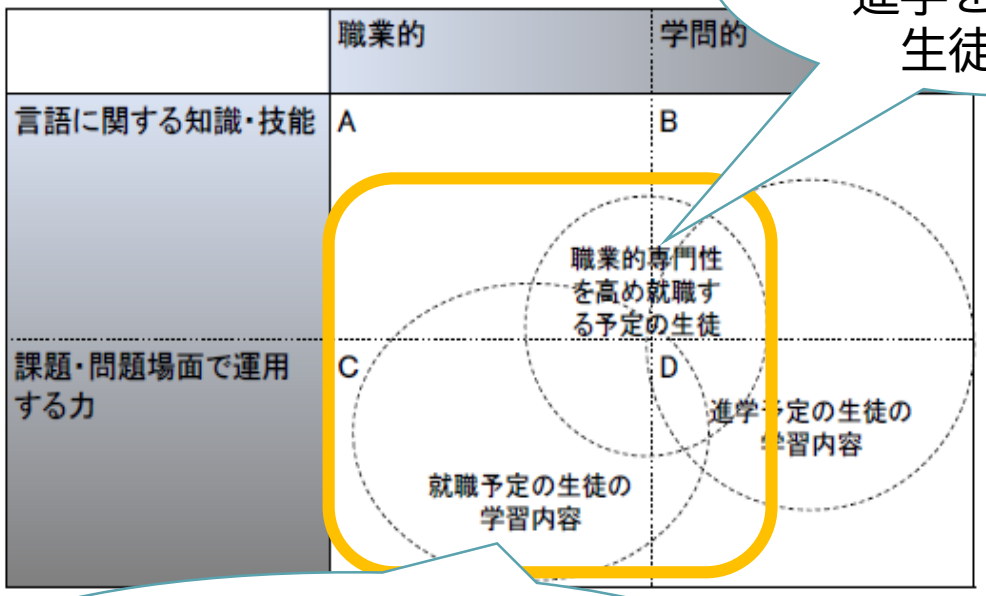
キャリア発達…ライフキャリアの視点で
・生涯にわたる長期的なプロセス
・社会との相互作用
・自己の能力を開拓し自分らしい生き方を実現
・自己認識と社会的認識の統合による自己理解

そのために育みたい日本語の力
　特定の職業で用いる語彙・表現の学習というよりも・・・・・
・職業を選択するための情報を得て、職業観を形成することばの力
・作業・課題を共に行う仲間と協働するために、考え・気持ちを伝え・理解する力
・仕事上の問題等に対処するためのことばの力
・職業に関する知識・技能を習得し、専門性を高めるためのことばの力

✱社会的・職業的自立に必要な「基礎的・汎用的能力」としての日本語の力を！

（4）多様な進路と日本語指導の内容

生徒の進路志向に応じて取り上げる言語の
知識・技能と運用力のバランス 『ガイドライン』p.26,27

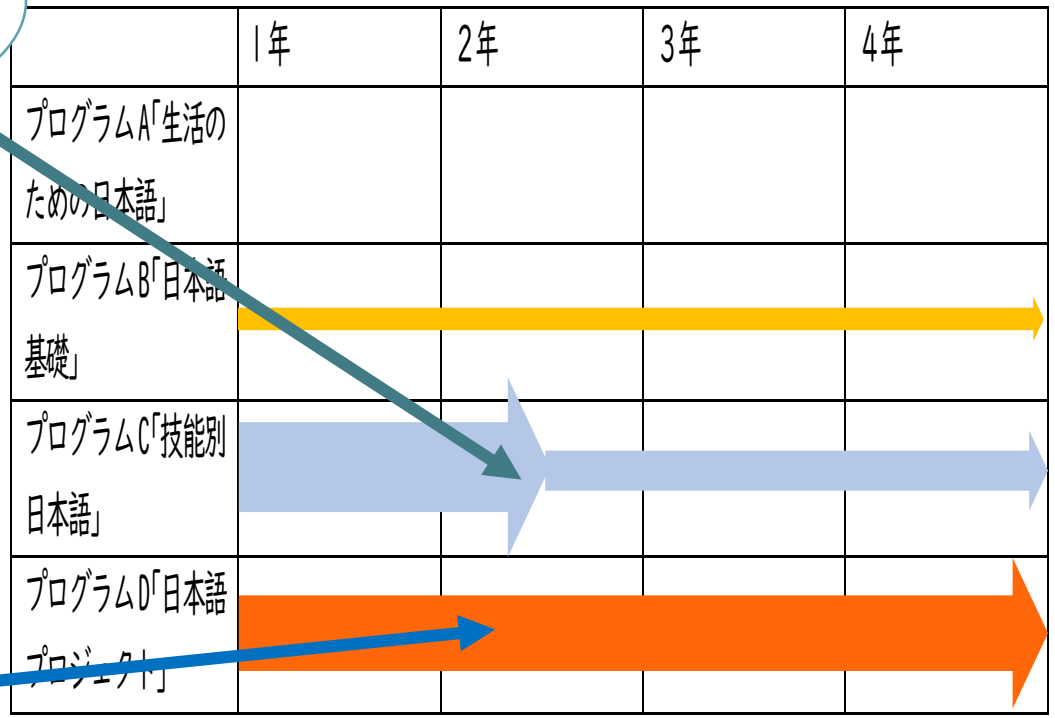


本研修で示す例
調理師専門学校へ
進学を志望する
生徒の場合

本研修で示す例
介護関連職での就職を
志望する生徒の場合

<ｐｐＣの生徒の場合>

学習に参加するための日本語の技能を改めて強化し、社会において自己実現するために必要な問題解決のための日本語の力を高めることを継続的に実施するイメージです。



（5）タスク活動、プロジェクトとして
職業的専門性に関する内容を日本語で学ぶ

プログラムC（技能別）やプログラムD（プロジェクト）で
「職業・専門的内容」と日本語の統合型の学習を実施

プログラムA 「生活
来日後の日本で
ラム。日本語を使

プログラムB 「日本語基礎」
日本語の基礎的な構造・意味・機能を理解し、生徒の生活場面や学習場面で運用できるようになることをねらいとする。日本語基礎は日本語の学習経験がない生徒を対象とし、順にⅠ→Ⅱ→Ⅲと積み上げて学ぶように構成されている。

プログラムC 「技能別日本語」
まとまりのある内容の文章・談話を聞いたり、話したりする力、そして、読んだり書いたりする力、を高めるプログラム。タスク（課題）を設定し、そのタスクを遂行するプロセスで、学習した日本語の基礎的な構造・意味・機能に関する知識を活性化し運用することを促す。

プログラムD 「日本語プロジェクト」
外国人生徒が共生社会の一員として自己を実現し、よりよい社会をつくるために、実際に問題・課題を解決する活動（プロジェクト）を通して、思考し、判断し、表現するためのことばの力を高めることをねらいとする。

（6）キャリア教育の活動を通して　ことばの力を高める

日本語の授業以外でも・・・

キャリア形成を支援するための活動（例）

『ガイドライン』p.48

① 就業や進学の仕組みに関する情報を入手し、その　して進路選択をするための知識を得る。
② 職種による仕事の違いなどについて体験　で調べたりするなどして、職業観を形成
するとともに、経済的自立
③ 先輩に当たる若者に進路
ジを意識して、自身の将来
④ 選択した進路を実現する
⑤ 多様なキャリア像をもつ同
⑥ 地域の企業・団体等と連
⑦ 地域産業や労働環境に
生かして貢献できることを
⑧ 国内の外国人労働者に関
⑨ グローバル化社会の労働
学ぶ。
⑩ 出身国・地域の高校生や若者の職業観や就業状況について調べ、将来の居住地と職業的自立との関係について具体的に検討する。

例）

② 職種による仕事の違いなどについて体験談を聞いたり自身で調べたりするなどして、職業観を形成するとともに、経済的自立の意識をつくる。

本日の研修「介護関連職への就職」の場合の案

⑥ 地域の企業・団体等と連携してインターンシップ（職業体験）の機会等をもうけ、働く実感を育む。

『ガイドライン』 p.82　認定NPO法人みんなのおうちの例

⑦ 地域産業や労働環境について調べ、その問題解決のために、自分のもつ多様な言語・文化資源を生かして貢献できることを考え行動する。

R4年度第3回オンライン研修　事例報告　茨城県立石下紫峰高等学校

https://kodomonihongo.u-gakugei.ac.jp/.assets/M23_kenshu05_ishigeshiho-164239b6c0.pdf

次に、具体的な例で